

# 畑ごよみ 8-2

皆農塾（埼玉県寄居町）<http://kainoujuku.web.fc2.com/>

8月中旬の農作業

キャベツ・ブロッコリー・カリフラワー・レタスの育苗  
秋1番手のキャベツ・ブロッコリー・カリフラワー定植（日除け）  
秋作のための畑の準備（除草・肥料撒き・畝づくり）  
秋・冬人参随時播種  
茄子・胡瓜に追肥



2011年のあの大地震そして原発事故が発災してから、もうすぐ2年半。埼玉県加須市には、日本中でたった一つ残る避難所があります。旧騎西高校（廃校）にある福島県双葉町避難所です。教室に畳を敷いただけの共同生活、平日は三食お弁当、土日はそのお弁当もありません。そこで、月一回の炊き出しをしているグループ『脱原発さいたま市』があります。高校生・大学生のボランティアが多く調理経験は未熟、メインメンバーの中に大量調理の経験を積んだ人もゼロ。炊き出しは、当初、失敗が続きましたが、回を重ねるごとに、人を引き寄せ、結び付け、取り組みは豊かになってきました。調理場では、学生たちが指示を待たずに声を掛け合えるようになり、調理場の見える食堂では、楽器持参のボランティアが双葉のおじちゃんおばちゃんたちと一緒に歌の大合唱。料理研究家の枝元なほみさんが参加されるようになり、予定メニュー外の副菜をその時々之余り野菜で作ってくださるようになりました。若いボランティアたちは枝元さんに背中を押されて、「一生懸命作りました、食べてください。」と言葉にする勇気を得ました。居室のある校舎廊下へ配膳の出前をしたり、毎回いろんな試行錯誤を重ねるうちに、居室ではなく食堂で一緒に食べる方が増え、おしゃべりもはずむようになりました。

私は、皆農塾と仲間の「野の扉」の協力野菜を届けた後は、おばちゃんおじちゃんたちに孫曾孫のようにかわいがってもらう2歳の息子と食堂を回っています。「大きくなったな。」と頭を撫でていくおじちゃん。食堂の端のソファで昼寝する子どもの顔を入れ代わり立ち代わり覗いていくおばちゃんおじちゃん達のおしゃべり。子育ての話、孫の話、双葉町再編の話、仮設コミュニティの話……。私を相手に話し始めたけれど途中で黙り込み、「あんまり話したくねな。」と小さく笑ったおじちゃん。

枝元さんは、「これ食べてください、というのは、どうぞ生きてください、ということだ。」と言います。震災前から各地の生産者をつなぎ、ホームレスの支援にかかわってきた枝元さんだからこの言葉です。その、命を支える食べ物を生み出す大地が汚染されたこと。原発を許しちゃいけない、繰り返し、そう思います。子育て中の自分にできることは限られていますが、今をどう生きるか、自分の子育ても含めて、暮らしのすべてが問われているのだから、自分にできることをやっていこうと思います。

脱原発さいたま市 <http://nonukescitysaitama.web.fc2.com/>

鈴木夕子